

令和4年度 学校評価総括表(御所小学校)

- 1 学校教育目標 「三あい運動(学びあい、喜びあい、励ましあい)」を通して、自他の命を大切に、共にたくましく社会を生き抜く力をもつ子どもを育成する。
- 2 本年度の重点目標
- ① 確かな学力の育成 ② 地域への愛着と誇りを育む教育の充実 ③ 「きびだんご日本一」の学校づくり

3 総括表

評価規準 S:大変よくできている A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる

領域	評価項目	自己評価(考察と課題)	評価	次年度への改善点等
学校経営及び学校運営	経営方針の明確化とその実践状況	全教職員で共通理解を図り、協力体制を整え、実践した。経営方針については、機会をとらえて継続的に伝えてきた。今年度は「きびだんご日本一」を掲げ、きびきびとした行動、団結力、ご飯をしっかり食べる、という視点から、学校行事等と関連させ、全校をあげて取り組むことができた。	A	A 学校教育目標の実現を目指し、学校運営協議会等を活用しながら、保護者や地域の方との協働体制を推進し、「チーム御所小」として組織的に取り組んでいく。 今後も教職員一人一人の特性を考慮したうえで、校務分掌を決定するとともに、年度始めの共通理解はもちろんのこと、途中でも修正するなどして、組織的に機能できるようにする。 3部会については、PDCAサイクルを意識しながら、今年度の成果と反省を生かして、具体的な取組を実施していく。また、本校の児童に実態に即した人権教育のより一層の充実を図る。 次年度も外部講師を依頼するなどして、全教職員のコンプライアンス意識の醸成に努めていきたい。メンタルヘルスの保持増進の観点からの取組も充実させたい。 コロナ禍で学んだ基本的な予防や対策を継続していく。また、施設管理については、今後も教職員全員で定期的な点検を行い、児童が安心・安全な中で学習ができるようにする。 「とくしまの学校における働き方改革プラン」を参考にしながら、校務支援システムの活用、職員会議における資料のペーパーレス化等、校務の効率化をさらに進めていく。
	校務分掌分担の適正化と組織的な活動・運営	役割分担が明確であり、報告・連絡・相談を密にし、組織として取り組めた。教職員アンケートでは、「学校運営に教職員の意見が反映されている」「校務分掌は特定の教員に偏ることなく適材適所が生かされている」の項目において、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると、100%であった。	A	
	教職員研修体制の確立と実践	三部会(学力向上推進部、道徳・人権教育推進部、安全・健康・体力向上部)では、今年度の取組の成果と課題を検証し、次年度への方向性を確認している。タブレット端末を用いた研修等をOJTで行うことができた。	B	
	教職員の資質向上に向けた取組	本校の教職員一人一人が、確固たる高い規範意識と倫理観を醸成するために、e-ラーニングや「コンプライアンスの日」等を活用して、知識と意識の更新を図ることができた。	A	
	教育環境の安全管理及び整備	保健主事が中心となり、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を呼びかけ、全教職員で環境整備に取り組んできた。施設管理については、定期的(月1回)に安全点検を全教員で実施している。	A	
	業務改善	週1回の定時退庁日を設けるとともに、グループウェアを効果的に活用し、勤務時間の可視化やペーパーレス化等、超過勤務の縮減を図ることができるよう努めている。	B	
教育活動	確かな学力(学習指導)	保護者アンケートでは、「学校が子どもによく分かるように工夫して授業をしている」の項目において、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると、95.6%(昨年比+2.7%)であった。家庭学習の振り返りを定期的に行い、保護者に働きかけるとともに、校内には、自主学習コーナーを設置し、各学年の模範となる取組(ノート)を掲示するなど、家庭学習の定着を推進している。	B	B 学力向上につながるよう今年度の取組を振り返り、次年度から学校全体で取り組む具体的な方策を決め、実施していく。また、読書の習慣化を進めていくために、親子読書や、わくわく読書デー等の取組の充実を目指す。 報告・連絡・相談を合い言葉に、教職員全員の共通理解のもと、生徒指導にあたっていく。また、ポジティブな行動支援の視点からのアプローチをさらに充実させていく。 計画的に授業研究を行い、スキルアップを図っていくとともに、互いを認め合い、支え合う集団(学校)づくりを目指し、学校経営(学級経営)に取り組む。また、地域を知るための研修を実施するなど、本校の実態に応じた人権教育の充実にも努めていきたい。 体力づくりについては、年間を通じて計画・実施し、児童一人一人の体力向上を目指していきたい。安全教育(防災・防犯)については、計画的に避難訓練を実施するとともに、地域や関係諸機関と連携しながら取り組んでいく。 毎学期の始めに個別の指導計画を作成し、それに沿った指導ができるようにする。また、保護者と連携しながら教育相談等を行い、専門的な視点からの指導の充実を図る。
	生徒指導	全教職員が共通理解のもと、生徒指導に取り組めた。保護者アンケートでは、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると「学校は子供のことについて相談しやすい」93.8%(昨年比+3.7%)「学校は保護者からの連絡や相談に素早くかつ適切に対応している」93.8%(昨年比+1.6%)であり、家庭とも連携を図りながら取り組んでいる。	A	
	心の教育(人権教育)	保護者アンケートでは、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると、「学校はいじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる」90%(昨年比-2.2%)、「学校は、自分や周りの人を大切にする教育(人権教育)に取り組んでいる」91.9%(昨年比+1.1%)であった。	B	
	健康・安全教育(体力づくり)	体育主任が中心となり、水泳、陸上、体操、マラソン、なわとび等を計画・実施し、児童の体力向上を図ることができた。保護者アンケートでは、「学校は子供の体力づくりに積極的に取り組んでいる」の項目は、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると93.8%(昨年比+0.9%)であった。	A	
	特別支援教育	支援を必要とする児童や気になる児童に関して、全教職員で共通理解を図りながら指導したり、家庭や専門機関(教育相談員、スクールカウンセラー等)と連携したりして、個に応じた指導の充実を努めた。	B	
保護者・地域との連携	情報発信及び地域とともにある学校づくり	毎月の学校だよりや学年だより、PTA新聞、HP等で情報発信を積極的に行った。保護者アンケートでは、「学校は学校(学級)通信やHPなどによって学校の様子や学習内容などをよく知らせている」の項目が、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると93.8%(昨年比+0.2%)であった。	A	B 家庭訪問、授業参観、学年懇談、個人懇談、HPなど、様々な場と機会をとらえて、情報を発信していく。マチコメールを活用し、緊急時においても正確な情報がスムーズに周知できるよう努める。 今後も、子供たちのよりよい成長のために、しっかりとPTA役員部、各専門部と連携を図りながら、学校教育の充実を努めていきたい。 保護者アンケートでは「学校は体験活動等を通して、ふるさと御所を大切にする教育に取り組んでいる」の項目は、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると96.9%(昨年比-0.9%)であったので、今年度以上に地域に根ざした教育を進めていきたい。 「POSTコロナ」を見据えて、地域の様々な関係機関とのつながりを充実させる。
	PTA活動の活性化	年度当初に各部会において、今年度の活動について計画を立てたが、コロナ禍のために中止や変更をするなど、計画通りにはいかなかったが、その都度話し合い、臨機応変に取り組んだ。	B	
	地域の人材や外部講師の活用	お話玉手箱の方による読み聞かせやTRCどなりの方による麦づくり、土成ライオンズクラブによるバットライスづくり、土成農協青年部による米づくりなど、制約の多い中に関わらず、多くの方の協力と工夫により、様々な体験活動を実施することができた。	B	
	地域行事やボランティア活動への参加	コロナ禍の影響で地域の行事が縮小され十分に参加できていない。	C	

4 学校関係者評価(学校運営協議会委員からの意見)

- 学校評価のアンケート結果を見ると、どの項目においても9割以上が好意的な回答であり素晴らしい。しかし、「学校が楽しい」という項目において、若干名ではあるが、そうではないと回答しているので、今後も丁寧な指導を心がけてほしい。
- メディアの活用については課題があるが、今後も「ノーメディアデー」や人権参観日等を通じて、家庭との連携を図りながら、児童一人一人が効果的に活用できるよう継続して指導してもらいたい。
- 「きびだんご日本一」等、学校全体で子供を育てていこうとする具体的な取組は、子供たちの主体性を育むことにもつながっており、今後も創意工夫しながらより一層の充実を目指してほしい。
- 今後も学校運営協議会委員として、御所小学校の教職員や保護者と連携を図り、よりよい児童の育成を目指して協力していきたい。

5 総合評価

学校評価の基礎資料として行った児童・保護者・教職員のアンケート結果は、概ね高評価であった。しかし、昨年と比較すると、「いじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる」「体験活動等を通して、ふるさと御所を大切にする教育に取り組んでいる」「子どもが仲良く助け合うことができるようになかよし班活動(異学年交流)に取り組んでいる」「きまりを守って、スマホやゲーム機、タブレット等を使っている」の項目が、下降していた。来年度は、仲間づくりの視点を基盤として、体験活動や異年齢活動、人権教育のさらなる充実を目指す。そして、学校・家庭・地域の連携を図り、三者の協働体制で子供を育てるという視点を大切にししながら、教育活動を推進していく。